

皆さんこんにちは。西北五支部の中田です。

今回は中泊町で定期的に行われている地域ケア会議に参加させて頂いたことを報告します。

主に中泊町役場で行われている地域ケア会議は、町の福祉課、地域包括支援センターの方々を中心に社会福祉士、ケアマネージャー、栄養士、理学療法士、民生委員等様々な職種の方が集まり、提供される個別事例と一緒に検討して意見を交換し合い、対象者をより良い方向へ導くにはどうすればいいのか、具体的なプランニングについて話し合います。

10月13日に行われた会議でも、個別事例を共有し、質疑応答、課題解決に向けてのグループワーク、ディスカッションを通じて様々な意見が出ました。

薬剤師として参加しているので対象者の服薬状況や副作用の確認、服用しやすい剤形について等の助言をする心構えもありますが、対象者が今のところ薬を服用していないという場合も珍しくありません。

そういう時は気軽な健康相談のための薬局としての役割や、定期検診を受けること、普段からかかりつけ医を決めておくことの重要性について話すことも心がけています。

提案された意見はすぐに実践出来そうなもの、時間をかけて行っていく必要があるものに分けて今後取り組んでいくことになりました。

11月10日にはZOOMによる多職者会議が行われ、社会福祉士の方が提供してくれた資料を中心にして超高齢化社会だからこそ発生しやすい8050問題(80歳の親が50歳無職の子供の世話を自宅でせざるを得ない問題)について皆さんで共有し、今後地域でどういった関わりが出来るかについて検討しました。

他にも認認介護(認知症の親を認知症の子供が介護している問題)という言葉もあるくらい高齢化が進んでいる状況で、今後はより一層地域包括支援という考え方が大切になっていくと感じています。

これからも地域ケア会議には積極的に参加して、地域医療の役割の中に薬局や薬剤師が広く認知されていくように頑張っていこうと思いました。